

# 北海道国際理解教育研究協議会 会報

第25号  
会長 大泉 弘  
事務局 石田省子  
発行 平成5年  
2月27日

## 激励会

在外教育施設への平成5年度派遣者が決定しました。(名簿参照)  
後記の内容で「激励会」を行います。より多くの温かい励ましをお願い致します。

## 支部報告

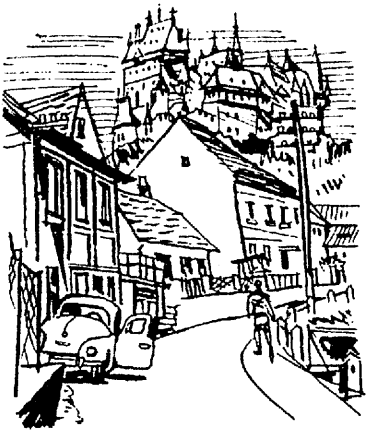
各支部からの〈活動報告〉を24号で御紹介しましたが、今回も 日高・上川旭川・留萌のそれぞれの支部から文書を寄せていただきましたので、掲載しました。  
それぞれの支部における活発な、そして有意義な活動に敬意を表します。また、御報告いただいた各支部の会長・各先生方に改めて感謝致します。ありがとうございました。

## 事務局から

今年度最後の会報「NO. 25」をお届け致します。今回で6回の発行を担当させていただきましたが、何かと行き届かない点が多々あったかと思えます。原稿依頼に快く応じて下さった方々に深く感謝致します。  
なお、海外からも多くの便り、報告をいただき、ありがとうございました。残りの在任期間健康に留意されてご活躍下さい。

## お知らせ

- \*「平成4年 在外教育施設派遣教員 帰国報告書」と、「第13回北海道国際理解教育研究大会江差大会の大会収録」が完成しました。年度末ですが、各支部の事務局、代表の方をお願いして、会員の皆さんに配布する予定です。
- \*会費納入をよろしくお願い致します。



平成5年度在外教育施設派遣教師

激励会のお知らせ

節分もすぎ さすがの寒さも和らいで日中の日の暖かさにも春の足音を感じるようになりましたが、会員の皆様におかれましては、年度末の諸行事等でご多忙のことと拝察致します。

さて、平成5年度「在外教育施設派遣教員」が別紙のように内定したとの連絡を道教委より受け取りました。来年度は、21名の派遣です。つきましては、恒例の「在外教育施設派遣教員激励会」を、本会主催、北海道教育委員会の後援によりまして下記の通り開催致します。

卒業式や進路指導など年度末業務が迫っていて大変でしょうが、かってご自分が派遣された時のことを思い出して、派遣者への激励や助言に、一人でも多くの会員に出席していただきたくご案内申し上げる次第です。特にかって自分が勤務したと同じ学校に行かれる方がいらっしゃる場合には、是非とも出席していただいて詳しい助言を差し上げて欲しいと思います。

なおどうしても参加できない方は、別紙の内定者一覧を見て「心得や準備等で重要なこと」を電話か手紙で助言していただければ幸甚です。

言記

1. 日時 平成5年3月8日(月)午後6時30分～8時30分
2. 会場 ホテルアカシア 2F「にれの間」  
住所：札幌市中央区南12条西1丁目  
電話：011-521-5211
3. 会費 6000円 (今年も、激励会後に別室にて懇談会をいたします)
4. 旅費 自己負担
5. 宿泊費 自己負担  
互助会の割引利用券(事務官からもらって直接フロントに提出)を使うとお一人、朝食(1000円)込みで、3500円位です

アカシアには、2月末までの期限で3月7日の宿泊については部屋をキープしていますのでご利用される方は至急電話で申し込んで下さい。申し込む際「海外派遣の激励会に参加する者」であることを申し添えて下さい。

2月を過ぎますと、事務局でキープしている分については解除しますが、部屋が空いている場合もありますので、一度アカシアに問い合わせられることをお勧めします。

6. 申込み 激励会の申し込みは、3月3日(水)まで葉書(住所、氏名、学校名、電話、派遣年度と派遣学校名を記入)で申し込んで下さい。  
(間に合わない場合は電話でも可)  
なお3日以降でキャンセルされる場合は必ずお知らせ下さい。

連絡先 板垣 修  
昼間：西部小学校 広島町島松284  
☎ 011-376-2104  
夜間：恵庭市恵み野西6丁目5-18  
☎ 0123-36-3278

平成5年度 在外教育施設派遣教員（管理職）一覽

管内	所 属	職名	氏 名	派 遣		先
				(国名)	日本人学校名	職名
その他	社会教育課(室副主任)	主査	菊池 征児	(アメリカ)	シカゴ(補)	校長
石狩	江別市立江別第三中	教諭	水見 政一	(パナマ)	パナマ	教頭

※委嘱期間：平成5年1月1日～平成8年3月31日  
 派遣期間：平成5年4月1日～平成8年3月31日

平成5年度 在外教育施設派遣教員（教諭）一覽

管内	所 属	職名	氏 名	派 遣		先
				(国名)	日本人学校名	職名
石狩	広島町立広葉中	教諭	河野 匡宏	(ブラジル)	マナオス	教諭
	札幌市立緑丘小	教諭	類家 斉	(フランス)	パリ	教諭
	札幌市立平岡小	教諭	国島 知章	(中国)	台北	教諭
	札幌市立清田中	教諭	五十嵐直幸	(インド)	ニューデリー	教諭
渡島	南茅部町立尾札部中	教諭	田畑 俊夫	(コスタリカ)	サン・ホセ	教諭
後志	蘭越町立蘭越小	教諭	徳光 茂	(中国)	台中	教諭
	小樽市立祝津小	教諭	加藤 達子	(マレーシア)	コタキナル	教諭
上川	富良野市立富良野小	教諭	森峰 智子	(マレーシア)	ペナン	教諭
	旭川市立啓明小	教諭	坪内夕季子	(韓国)	釜山	教諭
	旭川市立神楽中	教諭	岸 小夜子	(パナマ)	パナマ	教諭
空知	滝川市立滝川第一小	教諭	澤井登紀子	(ロシア)	モスクワ	教諭
留萌	小平町立小平小	教諭	日比生 究	(ブラジル)	オ・ヂ・ヂ・ネロ	教諭
網走	興部町立興部小	教諭	藤田 俊一	(ブラジル)	ベレーン	教諭
	留辺蘂町立留辺蘂小	教諭	鈴木 俊二	(フィリピン)	マニラ	教諭
胆振	苫小牧市立啓北中	教諭	道源 義博	(イギリス)	ロンドン	教諭
	登別市立登別温泉中	教諭	波川 賢一	(ドイツ)	ベルリン	教諭
十勝	浦幌町立吉野小	教諭	伊澤 昭宙	(イラン)	テヘラン	教諭
	大樹町立大樹小	教諭	梶原 源基	(アメリカ)	ニューヨーク	教諭
	帯広市立花園小	教諭	橋場 仁	(アメリカ)	ロス・アンゼルス(中国)	教諭

派遣期間：平成5年4月1日～平成8年3月31日

# 日高における国際理解教育の取り組み

日高支部

平取町立荷負小学校

笹川 幸一

## 1 活動の概要

国際化の波は、この日高管内においても年ごとにその勢いを増し、国際理解教育の推進は、緊急な課題となっております。

日高では、「世界に目を開く児童・生徒の育成」～学校と地域において国際理解教育をどう進めるか～を主題に、これまで6回の研究大会を開催し、実践上の指針となるものをその成果として得ることができました。

しかし、管内的には韓国、カナダ等の学校との姉妹校としての交流実践等はあるものの、教室での授業実践を通して「いつでも、誰でも、どこでも」できる国際理解教育の取り組みという点では、これから課題を残しています。

これからは「国際理解教育の実践は教室での授業から」を合い言葉に、より多くの教師を巻き込んで授業実践を1つでも多く積み重ね、その実践を交流し、より確かなものにしていこうと、意を新たにしているところです。

## 2 今年度の取り組みから

### ① 研究授業 「図工科を通して国際理解教育をどう進めるか」

授業者 三石町立三石小学校 教諭 梅木 登喜雄先生 (S61年メキシコ)

学年 2年生 (造形活動)

- 授業内容
- ・メキシコの子ども達がお祝いのときやお祭りのときに使うピニャータをつくり、それを使っての活動。
  - ・図工の造形活動を通して、他国の風習として使われている素材を取入れて作成。
  - ・ピニャータを使った活動を通して、日本と違った国について一部を垣間見る。
  - ・授業を通して国際理解教育をどう進めるか

### ② AETとの交流活動

三石町英語指導助手 アンドリア・アイラ・シェ先生

えりも町英語指導助手 マイケル・ウェルカー先生

### ③ 海外視察研修報告会

浦河町立野深小学校 教諭 鈴木 時男先生

## 『身近な国際理解教育』を求めて

上川・旭川国際理解教育研究協議会 会長 高畑 秀興

本会は、発足以来7年目を経過し、年々活動の充実と会員の増加を見ております。会員数56名で、その内訳は、海外派遣経験者36名、現在派遣中11名、一般教諭9名からなっています。すべて小中学校の先生方で、組織的にはまだまだ不十分な面がありますが、その活動は極めて活発であると自負しているところです。それでは、その活動の概略を紹介させていただきます。

### 1. 『学校五日制』（さて、“こどもは”？）=Vol 1・2=の発行

本会研究部を中心に、昨年9月実施の『五日制』を考える上での参考資料を得るために6月から7月にかけて世界87校の日本人学校から、すでに「学校週五日制」を実施している50校に対し、「児童生徒の土日の過ごし方」「海外における五日制の利点や問題点」などについてアンケート調査した。その結果を2回に分けて冊誌にまとめ、管内に配布。

### 2. 第2回『海外事情報告会』・『世界を語る友の会』の実施

事業部を中心に、主に今年度帰国された先生方に、3年間にわたる海外生活を通して見聞した内容を、会員初め多数の一般市民を対象に報告。今年度は50余名が参加、国際理解を深める一助とした。

また、報告会終了後、懇親の場を設け、会員が夫婦同伴で出席、一般参会者とともに、世界各国の情報を交換しあった。

### 3. 第7回上川・旭川『国際理解教育研究大会』の開催

本会発足以来実施してきている研究大会で、今年度は教育大学附属小学校を会場に同校4年生の音楽『世界の民謡』の授業研究と、北光小学校の『国際理解教育と教育課程』・富沢小学校の『ユジノサハリンスクとの交流学习』の発表を通して、本会の研究テーマである「たくましく世界に生きる子供の育成を目指して―身近な国際理解教育の実践―」に迫った。

### 4. 国際理解『巡回展示会』の実施

海外派遣を終えた先生方が持ち帰った貴重な資料を、旭川市内の展示希望校へ巡回し、児童生徒の国際理解教育に役立ててもらおうもの。今年度は8か国の資料約100点を2グループに分けて、展示希望校22校に1週間単位で巡回した。年々関心が高まり、子供の感想文とともに来年度の巡回を希望する便りが事務局に寄せられている。

### 5. その他特筆したい活動

#### ・会員研修

不定期ではあるが、国際理解教育の実践にかかわって会員研修を実施した。特に今年度は、冬休み期間中に宿泊研修を実施したり、海外派遣を希望する会員に受験のための事前研修を実施するなど、会員に好評であった。

#### ・会報の発行

広報部が担当し、年3回の発行を目指している。国際理解教育の現状を中心に、派遣されている海外の会員からの便りや、本会の活動状況を盛り込んで、会員はもとより、広く管内の小中学校へ配布している。

#### ・歓送迎会の実施

会員はもとより、教育委員会の来賓をまじえて、毎年盛大に実施している。

以上

# 留萌管内国際理解教育研究協議会

\*平成2年度・・・新聞記事を参照下さい。

\*平成3年度・・・第2回 留萌管内国際理解教育研究協議会 「羽幌大会」

(1)研究の目的 「互いの文化を理解し、国際感覚と国際性を身につけるために」

(2)主催 留萌管内国際理解教育研究協議会

(3)後援 北海道教育庁留萌教育局 羽幌町教育委員会

(4)期日 平成3年 8月28日(水) (5)会場 羽幌町中央公民館

(6)参加者 留萌管内国際理解教育研究協議会会員

国際理解に関心を持たれる方

(7)日程 略

(8)研究主題 (研究の目的に同じ)

(9)全体会

・昨年度全道大会報告 ・国際交流体験発表

・講演「国際理解のために」講師 戸部 アナマリアさん ・講師を囲む会

## 平成4年度 活動方針

平成4年 5月25日に第1回役員会が開かれました。昨年度の総括をもとに本年度の活動方針について話し合われました。以下、その内容をお知らせいたします。

会員一人一人の「自己研修・理論の確立・授業実践」を重視する活動

- 自主研究団体としての自覚と使命感に立つ活動 — 確実な事業の推進
- 市町村活動の組織化と交流を図る ———— 強い絆の交流
- 専門部を推進の核とした活動の強化 ———— ブロック研究を基盤を重視
- 会員相互の理解と親睦を深める ———— 研究会・実践紹介・会員紹介
- 研究の成果とその累積 ———— 実践記録集・研究紀要等の作成
- 若手研究実践家の育成と発掘 ———— 活動の場の充実
- 研究会の南・中・北の持ち回りによる地域実践充実  
————— 会員の実践の充実

### 1. 事業計画ならびに組織

(1) ブロック研修 (年に2回程度)

日常の個人研修をもとに

(2) 全体研修 (年に1回 ———— 総会と併せて)

ブロック研修の成果をもとに

○ 第3回 国際理解教育研究大会北部大会の開催について (別紙添付)

・ 開催地 天塩町

期 日 平成4年9月17日 (木)

ねらい 授業研究・部会討議・講演をとおして「国際研」のテーマに迫る

2. 全道国際理解教育研究大会等の案内

3. 国際理解教育研究紀要の発刊

平成4年度 国際研 役員一覧

— 会 員 数 — 7月20日現在 124人 —

梶延町 - 7名      羽幌町 - 19名      増毛町 - 5名      留萌市 - 21名  
 天塩町 - 21名      苫前町 - 5名      小平町 - 11名      高等学校 - 17名  
 遠別町 - 5名      初山町 - 11名      幼稚園 - 2名

役 職	氏 名	勤 務 先	住 居 先・自 宅
会 長	浅 沼 洋	小平町字小平 小平町立小平小学校	勤01646-6-2822 宅 6-2712
副 会 長	高 橋 保 司 郎	遠別町字幸和 遠別町立遠別中学校	勤01632-7-2034 宅 7-3782
	横 山 充	天塩町川口 天塩町立川口小学校	勤01632-2-3256 宅 2-1598
	宮 川 靖 彦	天塩町川口基線 道立天塩高等学校	勤01632-2-1108 宅 2-1159
事 務 局 長	松 村 孝	小平町字小平 小平町立小平小学校	勤01646-6-2822
事 務 局 次 長	中 村 仁 昭	初山別村字豊岬 初山別村立豊岬中学校	勤01646-7-2309
北 理 事 中 長 南	三 谷 英 男	遠別町字本町5丁目 遠別町立遠別小学校	勤01632-7-2021
	高 木 清	羽幌町南4-5 羽幌町立羽幌小学校	勤01646-2-1040
	岸 田 秀 昭	留萌市沖見2 留萌市立港南中学校	勤01644-2-1898
会 計 監 査	高 木 清	羽幌町南4-5 羽幌町立羽幌小学校	勤01646-2-1040
	岸 田 秀 昭	留萌市沖見2 留萌市立港南中学校	勤01644-2-1898

各市町村理事

地 区	市町村名	幼保小学校	中学校	高等学校
南 部	増毛町		藤森祐子 (増毛)	
	留萌市	大木隆司 (東光)	岸田秀昭 (港南)	白鳥信一 (留萌)
	小平町	日比生 究 (小平)	江島昭夫 (鬼鹿)	
中 部	苫前町	野原一夫 (古丹別)		
	羽幌町	高木 清 (羽幌)	松崎清州男 (羽幌)	瀧美浩二 (羽幌)
	初山別村	上野年光 (初山別)	中村仁昭 (豊岬)	
北 部	遠別町	三谷英男 (遠別)		
	天塩町	松法谷巖 (天塩)	松法賢悦 (天塩)	北山恒一郎 (天塩)
	梶延町	後藤隆司 (梶延)	広瀬一仁 (梶延)	

通刊 1号

# 国際研会報

平成4年8月11日

発刊 留萌管内国際理解教育研究協議会

会長 浅 沼 洋

編集 留萌管内国際理解教育研究協議会 事務局

## 会長就任にあたって

留萌管内国際教育研究協議会

会長 浅 沼 洋

会員の皆様には、ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたしますが、いかがでしょうか。今年の夏は、宮沢賢治ではありませんが、「サムサノナツハ オロオロアルナ…」の心境の気候でしたね。

さて、本年度も会長を務めることになりました。どうぞよろしく願いいたします。本会をご承知のように、平成2年3月に設立されたばかりのひよこ同然の会として、基礎づくりに懸命の状況にあります。本来であれば、来春退職の身である私ですから、バトンをお渡しすべきなのでしょうが、何ぶん事務局長が一年ごとに交代し、地盤もすっかり固まっていない状態にあるため、敢えて再度その責任を担った次第です。

本年度の大会は天塩町で開催されますが、当町会員の意欲的行動力によって、初の授業公開を小・中・高で公開できる運びになりました。また、会員の数も120名を越え、国際化時代にふさわしい自主団体として、ようやく軌道に乗れそうです。

どうぞ、会員皆様の更なるご協力をお願いいたします。



研究会のご案内

第3回 国際理解教育研究大会

—— 天塩大会 ——

- (1) 期 日 平成4年9月17日(木)  
(2) 会 場 天塩小学校 ・ 天塩中学校 ・ 天塩高等学校  
(3) 公 開 授 業

	公 開 授 業	授 業 者
天塩小学校	社会—世界の中の日本	昇 洋 一
天塩中学校	集会—カナダの訪問	田 谷 典 久
天塩高等学校	英語—外国事情	成 田 昌 彦

(4) 日 程

受 付 12:40~13:10  
公開授業 13:10~14:00  
移 動 14:00~14:20  
開会式 14:20~14:40  
部 会 14:40~16:00  
閉会式 16:00~16:45

部会は一

- ・ 小・中学校部会
  - ・ 高等学校部会
- の2部会に  
なります。

(5) 講 演 19:00~

講 師 日 高 五 郎 氏  
演 題 未 定

夜おそい講演となりますが、ご参加下さい。

初めての授業研究

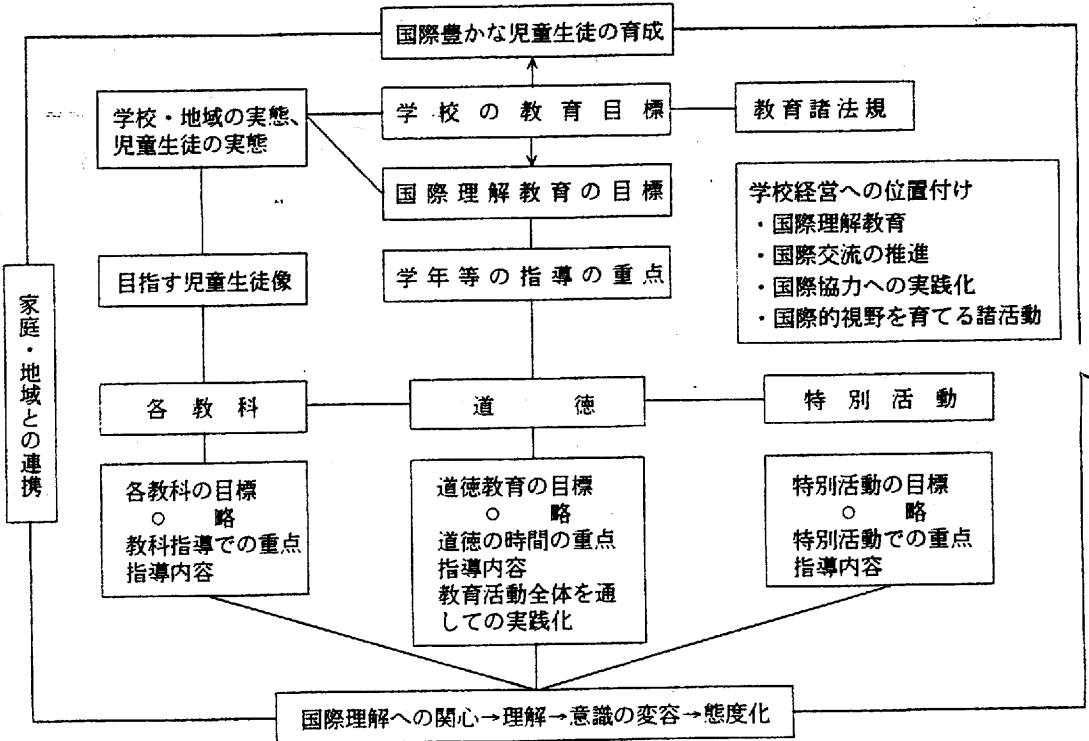
天塩町国際研、研究大会実行委員会々長 桜田 敬 校長先生(円山小学校)が中心となり天塩小学校・天塩中学校・天塩高等学校の理事の方々が初めての授業研究にむけて各学校のご理解とご協力を得て「研究の実践」を深めてきております。

また、講 演 については、管内国際研副会長 横山 充 校長先生(円山小学校)のお骨折りで天塩町教育委員会のご協力を得て実現することになりました。

ぜひ、会員のみな様が多数ご参加下さいますようお願い致します。

国際理解教育の推進

1 国際性豊かな児童生徒の育成を目指した全体構想



昭和62年度 学校教育指導資料 (北海道教育庁学校教育課) より

2 年間指導計画の例 (天塩町立円山小学校)

月	交 流 内 容	教育課程への位置付け
4	・国際理解教育について学習を深める。	
6	・運動会招待、参加	・特別活動 (学校行事)
7	☆料理講習会 (講師: ビッキーさん) ・交流学习 (内容: 体育) ・校内キャンプの交流	・ゆとり (ふれあいタイム) ・教科 (体育) ・特別活動 (学校行事)
8	・合同写生会	・教科 (図画工作)
9	・マンゼルさん一家と親子レクリエーション ・交流学习 (内容: 音楽)	・ゆとり (ふれあいタイム)
10	・学芸会招待、参加	・特別活動 (学校行事)
11	☆講演 (講師: マンゼル=ケンさん) ・交流学习 (内容: 音楽)	・ゆとり (ふれあいタイム) ・教科 (音楽)
12	・餅つき集会招待	・特別活動 (児童会活動)
1	・書き初め会 ・交流学习 (内容: 体育)	・教科 (国語) ・教科 (体育)
2	・スノーフェスティバル招待、参加	・特別活動 (学校行事)
3	・反省 (内容、時間的、子供の反応等)	

# 114ピート授業

## 留萌管内国際理解教育研究大会

九月十七日(木)  
天塩小・中・高等学校  
会長 浅沼 洋

### 研究主題

自国の文化と他国文化の理解、相互理解、コミュニケーション能力の育成を図り、国際感覚や国際性を身に付けさせることを目的とする。

### 研究内容

地域との連携を深め、授業を通しての具体的な国際理解教育の在り方を究明し、研修を深め合う。

### 研究の成果

「国際理解教育」の授業づくり、授業の実践によって「国際理解教育」の意義・内容・実践上の留意点などが把握できるようになり、また児童の視点が、わずかであるが広がりつつある。

今後の課題  
教育課程への位置付け、教科・道徳や特別活動への展開等、今後の課題となった。



# 公開授業



天塩町立天塩小学校  
教諭 昇 洋一

## 一 単元 世界のなかの日本

二 目標  
○我が国は世界の国々と深く結びついていることを理解するとともに、それらの国々の人々の生活の様子を理解させる。  
○平和な国際社会実現のために努力している国際連合のはたらきと、その中で我が国の役割を理解させる。

## 三 指導計画(十四時間扱い)

- オリエンテーション……………1
- 外国の人々のくらし……………4
- スポーツや文化による外国との結びつき……………2
- 国際連合のはたらき……………4
- 国際社会に果たす日本の役割……………3

## 四 授業の意図

貧困・飢えと無縁な我々にとって同アジアの国々の実態を知らせることは有意義であると感した。特に、今回の授業では国際機関の中で援助している組織があることをビデオや模擬体験を通して子どもたちに訴え、我々がしてあげられることを一人一人が考えられるように展開していったら、と考え、以下のような講案を準備した。

## 五 本時の展開

(1) 目標  
・アジアの子どもらの乳児死亡率の高さを知り、その対策としての経口補水薬法の模擬体験を通して、国際連合(ユニセフ)の活動の意義を理解することができる。

段階	学習活動	児童の活動	講義への対応
導入	○1000人のうち、何人がそうなるかを表した数です。何を表していると思えますか。		
展開	カンボジア 135 ネパール 131 バングラデッシュ 120 インド 100 ベトナム 71 フィリピン 46 中国 32 韓国 20 日本 5	交通手段で死ぬ人の数 文字の読めない人の数 豊かで人殺する人の数 貧乏で死ぬ人の数 犯罪者の数 殺人をする人の数	上記図は多くの回答がもてるよう、また下記図には、何か一つでも回答が得られるよう期待する。
12分	○この数は1歳になるまでの赤ちゃんが1000人のうち、何人くらい死んだかを表した乳児死亡率と説明する。		
10分	○国際連合の中のユニセフが乳児死亡率を少しでも下げたためにたくさんの方を助けています。	・家族のあるものを食べる。 ・予防接種をする。 ・病気にならない。 ・お水を持っている国がたくさん助かる。 ・赤ちゃんを清潔にする。 ・国際連合が助かる。	今日まで子どもたちが予知中絶手術で死んだことなどを大げさに取り聞きたい。よくいる子どもと聞かせ考えを伝えさせたい。
13分	○みんなの体験したことのない経口補水薬法を模擬体験してみよう。 ○どんな味がしましたか。 ○ユニセフは瓶で書かれた多くの国の子どもたちを助けています。	・紙コップに少しずつ飲む。 ・おいしくない。 ・おいしい。	

## 六 まとめ

国際理解という言葉だけでは知っていましたが、教材は何にししたら良いか、その中に国際理解を色濃く出すにはどうしたら良いのか。安易に授業を引き受けてしまったことに後悔したこともありましたが、本校の先生方をはじめ、たくさんの方々のご協力で何とか終わることができホッと胸をなでおろしています。

本時の学習指導案を組むに当たって留意した点は、①学力差の大きい学級実態の中でいかにして共通の学習課題を子ども一人一人に認識させるか。②国際理解の特色を出すために考えたい苦肉の策、模擬体験をどのような過程を踏んで提示したらよいか、ということでした。前者については私自身の強引な誘導にも関わらず、大きな混乱はなく流れていったのですが、模擬体験の必然性を感

じさせないままに提示してしまったことが、子どもたちの意欲を逆にしたと反省しています。国際理解が重要視されている今、これからは私のように異国の事について無知な教師でも避けては通れない問題だと思えます。それを克服するために豊富な経験をもつ人の話に耳を傾け、また多くの実践書を読む他はないと考えています。教材研究不足であったことを反省し、今大会のテーマである、「国際性豊かな子どもの育成を目指して」を一つの教科に偏ることなく実践できるような研修を深めていきたいと思えます。最後になりましたが今回の研究授業に当たり、ご指導、ご協力をいただいた多くの先生方に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

# 北海道通信

昭和50年6月12日第3種郵便物認可

日刊 祝日、日曜日、第2、第4土曜日 休刊 日刊教育版

平成2年 第4384号  
 発行所 札幌市中央区北5条西6丁目  
 株式会社 北海道通信社  
 代表取締役 松本 隆  
 編集長 松本 隆  
 社 長 松本 隆  
 支社 東京 581-3655 旭川 32767  
 函館 7781-0528 釧路 27872  
 旭川 1735-3719 小樽 25044  
 札幌 2716-2310 帯広 25013  
 旭川 2934-0028 網走 25013  
 旭川 20957 (電話) 日 1月 8,500(円)

## 日刊留版

1990年(平成2年)6月29日(金曜日)

留版内閣理解教育研  
 究協議会(淡路洋会)と  
 留版教育組合センター(淡  
 路所長)主催の国際理解  
 講演会は、二十七日午後六  
 時から留版市文化センター  
 で開かれた。講師はオスマ  
 ン・サンコンさん、ユニ  
 ークな語りで聴衆の笑いを  
 誘った。

### 外国に興味を持って つながりも大切に

国際理解  
講演会 サンコンさんが力説

「つながり」を大切にする。日本人の  
 間、在日キリシタン大使館に  
 勤務した経験を持つ。現在  
 は、日本キリシタン友好協会の  
 広報官として活躍。日本で  
 の生活も十数年になり、「気  
 持ちはすっかり日本人になり  
 ました」と話す。講演で  
 は、ユニークな語りでやさ  
 しい笑顔をみせながら、日  
 本の「善しあし」について



「オスマン・サンコンさん」  
 昭和四十七年から八年  
 間、在日キリシタン大使館に  
 勤務した経験を持つ。現在  
 は、日本キリシタン友好協会の  
 広報官として活躍。日本で  
 の生活も十数年になり、「気  
 持ちはすっかり日本人になり  
 ました」と話す。講演で  
 は、ユニークな語りでやさ  
 しい笑顔をみせながら、日  
 本の「善しあし」について

「オスマン・サンコンさん」  
 ユニークな語りで聴衆を  
 引きつけたサンコンさん

## 日刊留版

1990年(平成2年)6月26日(火曜日)

留版内閣理解教育研  
 究協議会(淡路洋会)と  
 留版教育組合センター(淡  
 路所長)主催の国際理解  
 講演会は、二十七日午後六  
 時から留版市文化センター  
 で開かれた。講師はオスマ  
 ン・サンコンさん、ユニ  
 ークな語りで聴衆の笑いを  
 誘った。



「オスマン・サンコンさん」  
 昭和四十七年から八年  
 間、在日キリシタン大使館に  
 勤務した経験を持つ。現在  
 は、日本キリシタン友好協会の  
 広報官として活躍。日本で  
 の生活も十数年になり、「気  
 持ちはすっかり日本人になり  
 ました」と話す。講演で  
 は、ユニークな語りでやさ  
 しい笑顔をみせながら、日  
 本の「善しあし」について

「オスマン・サンコンさん」  
 ユニークな語りで聴衆を  
 引きつけたサンコンさん

### サンコンさん招き

27日に国際理解講演会

## 北海道新聞

1990年(平成2年)6月29日(金曜日)

### 義理と人情、大切に

留版 サンコンさんの講演会



「留版」留版内閣理解  
 教育研究協議会(淡路洋会)と  
 留版教育組合センター(淡  
 路所長)主催の国際理解  
 講演会は、二十七日午後六  
 時から留版市文化センター  
 で開かれた。講師はオスマ  
 ン・サンコンさん、ユニ  
 ークな語りで聴衆の笑いを  
 誘った。

「オスマン・サンコンさん」  
 ユニークな語りで聴衆を  
 引きつけたサンコンさん



# 八百人の市民集まる

## 国際理解講演会開く

### 外国文化に理解深める

### テレビでおなじみサンコンさんも



ユーモアを交えて講演する  
オスマン・サンコンさん

福岡県国際理解教育研究会(後援会)、開教育センター(派出センター)主催の「国際理解講演会」が、二十七日午後六時から前出文化センターで開かれ、会場盛況に七百八十人の市民が参加した。司会役は「シロウ・イマシ」さん。テレビでおなじみのキニア人のオスマン・サンコンさんの講演に耳を傾けた。

国際理解講演会は、今年三月に開かれ、今回第二回講座として、外国による講座を通して、自国の文化や他の国の文化への理解を深め、国際感覚・国際性の向上に努めることを目的に初めて開かれた。

講演会では、最初に中国上海出身の留学生周偉峰さん(三〇)が登壇し中

「国教育のあれこれ」と題して講演。周さんは中国文化大革命時代とそれ以後の中国教育、現在の教育の現状と普及などについて説明。私生活の上野山は、小、中、高、大、大学院まで義務教育が導入されている。大学は四十五校あり毎年二万人が卒業。上海

の教育レベルは中国でも高い」と題の教育制度説明。周さんは「私に勉強を教えるべきだ」という思いを述べた。周さんは「私に勉強を教えるべきだ」という思いを述べた。

「笑っていい」といって、なぞおなじみのキニア外務省を体験し、日本キニア外務省の広報官として兼任して

るオスマン・サンコンさん(四二)が「アメリカから見た日本」と題し、ユーモアを交えて講演。サンコンさんはキニアの国を紹介。「ボクのお客さんは笑えが三人いて、

名刺サンコン、など会場を笑わせ続けた。周さんの印象については「日本に来る前に日本の事を勉強した。ちよんまげ、刀を持って、だが、空港に降りるとみんなスーツを着ていてびっくり。キニアには地味がなく、日本にきてすぐ地味があり、次の日、嫌なところだ。外田さんが日本を嫌うのは、二、三

中ではできないと思う。日本人を理解するには異文化理解、カチンカチン、日本人のまは理解、人情だと思えば、東京より地方のほうが日本を知ることが多いと思う。日本のメディアは自動車、カメラ、テレビなど作品が面白いが、日本の文化、オーストラリア個性をもっと外国に発信すべき。など述べた。サンコンさんは「二人の年寄りの様子の説明が面白かった。同じ、行われており、お年寄りに白刃の学校の先生を大物にしている。これからの日本は若い人たちの責任とあり、お互いに認め合っていく。関や先生の話を聞きながら聞いてほしい。など述べた。

## 海外から

パゴダのヤンゴン日本人学校で活躍されている 高尾 稔先生からの便りです。

# パゴダの国から

— ミャンマー雑感 —

## 新年明けましておめでとうございます

ヤンゴンに赴任して2度目の新年を迎えようとしています。しかし、この国の新年は4月の中頃にあたるので（この頃は3日間にわたり「水祭り」といって大変にぎわいます）、今は街中を歩いているだけでも1993年用のカレンダーが売っていたり、こぎれいなお店に「A HAPPY NEW YEAR」の飾りがあるくらいで、日本のような年末年始のあわただしさは全然感じられません。

今年度は一時帰国もでき、久しぶりに日本の空気、味にふれることができ、楽しい日々を過ごすことができました。

さて、ヤンゴン日本人学校は平成4年度、6名中、学校長1人が入れ代わりという布陣でスタートしました。これまでの実績を土台に学校長の考えをミックスさせ、全員一致団結して取り組んでいます。2学期は気候も穏やかになるので行事が集中しますが、その中でも一番力が入るのが「チルドレンズフェスティバル」です。

### 国際理解・現地理解教育にふくらむ夢

『ドレミの歌』を歌う子どもたちの声が響き渡るステージ、「チルドレンフェスティバル」のフィナーレ.... インターナショナル・ディプロマ・インドネシアン・ロシアンとお馴染みの学校、そして昨年から参加しているお向かいのマリーチャブマン豊学校の子どもたちの顔もあります。さらに今年のステージには、韓国そして3つのミャンマー公立学校からの新しい友だちが増え、総勢150名ほどというこれまでにない規模のものになりました。数もさることながら、なんといっても今年の特筆すべきことはミャンマーのいわゆる普通の学校の子どもたちの参加が実現したことです。

現地の学校との交流は日本人学校の永年の夢でした。開校28年の長い歴史の中でもほとんどありませんでした。というよりできなかったというほうが正しいでしょう。残されている記録を見ても、14年ほど前に先生方が小学校を訪問しているだけで交流にはほど遠く、これもミャンマー(ビルマ)政府のとった政策のせいで学校側も消極的にならざるを得なかったからだと思われます。1988年の暴動以後“制限された状況下での可能性を追求していこう”を合言葉で再開さ

れた教育活動は、国際理解教育においてもまずこの国を知ることから始まり(ビルマ数字や歌、マーケットへの買い物など)、インターナショナルスクール主催のサッカー大会や陸上大会、インドネシアン絵画コンクールなどへ積極的に参加したりする一方、本校主催のスポーツ大会や交流会の場を設けたりするなどして広がりを見せてきました。マリーチャブマン校との交流も現在の学校に移転した2年前の9月に学校を訪問したのをきっかけに、10月に本校で折り紙を通じての交流会がもたれたのがその始まりです。それ以後、定期的に「学習発表会」(現在の「チルドレンズフェスティバル」)に招いたり、クリスマス会に招かれたりなどの交流が続けられています。これらがスムーズにできるのは、同じミャンマーの学校でもマリーチャブマン校は私立校で、外国人の出入りなどに関する手続きはほとんど必要ないからです。しかし公立校ともなるとそうは簡単にいきません。学校の様子を知りたいので写真を一枚取らせてほしいと言っても、政府の許可が必要になるくらいですから、学校同士の交流については言うまでもありません。

もちろん今年のフェスティバルで公立校の参加が実現するまでもにも紆余曲折があって、一時はあきらめたこともありました。紙面の関係上その経緯の詳細については省略してもらいますが、冒頭の場面を目の当たりにできた私たち教師の胸には感慨深いものが残りましたし、子どもたちにとっても貴重な体験ができたと思います。その後行なわれた初めての「ラインサッカー交流会」でも従来実施していた「サッカー大会」より参加校が増え、当日だけでなく練習試合をする中で子どもたちは新しい発見をし、また一歩前進した気がします。これを機会に広がりだけでなく、深まりのある交流をと私たちの夢はふくらんでいます。

#### 【追伸】

9月11日から「夜間外出禁止令」がなくなりました。しかし、まわりの様子はそれ以前とそれほど変わらず、夜中時々自動車が通ったり、若者がギターを奏でながら歌う声が聞こえるくらいです。かえって日本人を含めた外国人のパーティーが遅くまで行なわれるようになり、カラオケや生バンドでの音楽が遠くまで聞こえて睡眠の邪魔になっているのではないのでしょうか。

1992.12.30.記

ヤンゴン日本人学校  
高尾 稔